

「一級建築士」合格体験記

所属 県中地方振興局 県民環境部 県民生活課
職・氏名 主任建築技師 矢吹 利恵

1 受験の動機・経緯

県職員になり、暫くは何となく受験していましたが、主人の一級建築士合格が最大の動機です。主人ではありませんが、同僚でもあるので、「ちょっと悔しいな。けっこう羨ましいな。私も取れるなら取ってみたい！」と火が付きまして。

また、3人の子どもたちの「かっこいいママ」になりたくて、一念発起しました。

2 試験勉強の進め方

私の場合、集中して勉強する時間を買うため、学科・製図ともに資格学校へ通いました。

学校以外の学科の勉強では、毎日最低でも2時間は確保するため、職場の昼休みや通勤時間などの「すきま時間」を有効活用しました。テキストを読んだり、過去問の無料アプリを使ってコツコツ問題を解いたり、苦手な構造力学の問題を1日1問解いたりしました。

製図の勉強では、主に子どもたちが寝た後からスタート。一日一つのこと（エスキスカ作図か記述）に集中して、繰り返し練習しました。でも、次の日も仕事があるので、なるべく12時くらいには就寝するようにしていました（体力回復も大事です！）。

3 勉強と仕事との両立、職場の理解について

私の場合は、母親・妻・建築技師・資格学校の生徒の4つを両立しなければなりません。到底私一人の力では成し得ることができないため、様々な場面で周囲の力を借りました。例えば、勉強時間確保のために、家庭のことや家事は主人や両親の力を借りました。子どもたちも沢山お手伝いしてくれました。試験直前には、職場に受験のことを伝え、まとまった休暇を取り、集中して追い込み勉強をしました。自分自身も、周囲の協力に応えるべく、効率よく勉強することを心掛け、他のことができる時間を作るようにしました。全てにおいて、周囲の協力や支えがなければ、乗り越えることはできなかったと思います。

4 試験当日の心構え、留意点

学科試験では「大丈夫。125点満点なんて取る必要ない。」と自分に言い聞かせて落ち着かせました。特に学科Ⅰ（計画）の1問目は必ずと言っていいほど難しい！最初でつまずかないように、1問目は後回しにて2問目から解きました。

製図の試験問題では、サプライズ（初めての出題）が沢山出てきます。問題を見て、頭が真っ白になるかもしれませんが、それは他の受験者も一緒です。諦めずに時間をフルに使って、とにかく描き切ってください！描き切れば、可能性はゼロではなくなります。

5 県職員採用試験受験者へのアドバイス

仕事と勉強の両立は正直大変です。ですが、高い壁を乗り越えた時の景色は、その者しか見ることのできない格別なものであることも確かです。何より、県職員には一級建築士の諸先輩方が沢山います。資格取得へ向けて的確なアドバイスをしてくれる！はずです。

「一級建築士」合格体験記

所属 喜多方建設事務所 建築住宅課
職・氏名 建築技師 福地武彰

1 受験の動機・経緯

建築系の大学を卒業し、建築系の仕事に就いたからには、どんなに時間がかかったとしても一級建築士資格を取得したいと考えていました。

また、県有建築物の営繕工事などの業務を担当する中で、建築士資格が無いと設計・監理ができない規模の業務も担当してみたいと思うようになり、これに伴って資格取得への気持ちが強くなりました。

2 試験勉強の進め方

学科試験については、建築系の大学で基礎知識を学んでいたもので、過去問対策から始めました。毎年、新規出題の選択肢が数割あるものの、大部分は過去に出題されたものなので、過去問の正誤判断ができるように繰り返し勉強しました。また、学科5科目のうち出題数が多い「法規」と「構造」については、得点源にできるよう勉強時間を確保しました。特に「法規」は慣れるまでに多くの時間をかけました。

製図試験の大まかな流れは、「課題文の読取り」→「エスキス」→「記述&製図」のようになりますが、試験勉強としては「製図」の部分を中心に最初に取り組み、既存図面のトレース学習により線の引き方や階段などの描き方に慣れようと考えました。また、製図用具を揃える段階から先輩職員に助言をもらい、時間が短縮できるよう準備しました。製図に慣れ始めると、バリアフリー法に準拠した各部詳細や選択した設備計画を満足する構成などを描けるよう勉強し、想定課題に取り組んでいきました。

3 勉強と仕事との両立、職場の理解について

第一に、職場で資格取得を応援しない方はいません（笑）。むしろ積極的に取得するよう声掛けがあります。また、既に資格を取得している先輩に尋ねれば、勉強の仕方などを教えてもらえます（製図試験は特に）。

勉強と仕事の両立については、仕事の中で試験につながる部分に気付けるかがポイントになると思います。勉強の全部を仕事に結び付けようとする必要はありませんが、仕事で学んだことを試験勉強に活かせる場面は多くあるので、意識してからは勉強内容を覚えやすくなりました。

4 試験当日の心構え、留意点

受験の天敵は「焦り」です。焦る要因をなくすよう準備することが大切です。まず、試験会場には早めに到着できるようにしましょう。勉強した内容をおさらいできるくらいの余裕があると better です。

また、分からない問題は当然出題されるものだと思っておくと焦らなくて済みます（私は学科試験に“転がす用の鉛筆”を持参しました）。

製図試験については、前日に製図用具の手入れをして、不具合がない状態にしておくことストレス無く製図に集中できます。

あとは実力を発揮するだけです(^)/

5 県職員採用試験受験者へのアドバイス

一級建築士試験における学科の出題範囲は、県職員採用試験の専門試験と重複する部分が多くあります。大卒の方は、入庁後すぐに一級建築士試験を受験可能ですので、試験を見据えて、県職員採用試験の勉強をするのもお勧めです。

また、最近では国土交通省でも BIM 活用が加速するなど、DX を中心とした新技術の導入が進んでいます。BIM については、学校の授業で使用する機会があるかもしれませんが、積極的に学会発表等を聴講するなど、今のうちから建築関連情報に意識を向けておくことも、今後、建築に携わる上で一助になると思います。

「一級建築士」合格体験記

県南建設事務所 建築住宅部 建築住宅課
職・氏名 主任建築技師 安齋 泰弘

1 受験の動機・経緯

大学院在籍時に二級建築士を取得しており、いずれは一級建築士もと思っていましたが、私の入学した年から、大学院が実務経験として認められなくなり、大学院修了後からの実務経験が必要となりました。それにより、モチベーションが若干下がり、あまり勉強をしないまま受験していた時期がありました。

しかし、自分のキャリアを考えたときに、このままではダメだと思うようになり、本気で受験することを考えました。

2 試験勉強の進め方

確実に合格するためには資格学校に通うことが必要と考え、学科・製図ともに資格学校に通うことにしました。

学科の勉強は学校の予習・講義・復習を完璧にこなすことを実施しました。

設計製図の勉強は学校から出された課題及び宿題を必ず実施しました。

試験勉強は約一年間続くことから、モチベーションを維持することが大変です。一年間ずっと気を張り詰めていると効率が悪くなってしまふことから、たまに気分転換して、モチベーションを維持していました。

3 勉強と仕事との両立、職場の理解について

日曜日に資格学校の講義があったことから、学科の勉強は仕事から帰ってからと土曜日に行いました。設計製図は、まとまった時間が必要であることから、土曜日や夏季休暇等を利用して勉強を行いました。

夏季休暇等の休暇は、職場の同僚が休まない水曜日等を中心に取るようにしたことで、取りやすかったです。

4 試験当日の心構え、留意点

試験前日や当日に緊張するのは当たり前です。それは自分がそれだけ頑張ってきた証拠です。私の場合、試験前日は勉強をあまりせず、神社に参拝してきました。

5 県職員採用試験受験者へのアドバイス

法律が変わって、建築系大学を卒業すれば、実務経験なく一級建築士の試験を受験することができるようになりました。働きながら試験勉強をすることは想像よりも大変です。学生の時間があるときに試験勉強をすることをお勧めします。

「一級建築士」合格体験記

事務所： 県中建設事務所建築住宅課

職・氏名： 建築技師 平野悠

1 受験の動機・経緯

大学で建築を専攻しており、将来は一級建築士を取得したいと思っていました。

県に入庁後、業務で建築基準適合判定資格者（一級建築士が受験資格）が必要であることや、諸先輩方が資格を持っていることをきっかけに受験を決意しました。

2 試験勉強の進め方

【学科試験】

基本的には過去問を中心に学習を進めました。私の場合、過去問 10 年分 3 周を目標としていました。（最終的には 7 周しました。）

学習を進める上で、文章だけではイメージが湧かないものは資格学校の映像講義や教科書、インターネットを利用して理解を深めました。

【製図試験】

製図試験はとにかく時間との闘いになるため、自分でタイムスケジュールを決め、それを崩さずにやりきる練習をしていました。

例：読み取り 30 分、エスキス 90 分、中間チェック 20 分、記述 70 分、作図 150 分、最終チェック 30 分。

また、上位約 3 割が合格する試験ですので、資格学校等に通っていれば人の図面を積極的に見せてもらい、自分が全体のどのくらいの位置にいるのか把握することも大事だと思います。

3 勉強と仕事との両立、職場の理解について

一級建築士試験は、合格まで約 1,000 時間の勉強が必要と言われています。そのため、いかに生活の中で勉強時間を確保するかが重要になると思います。

私の場合、朝 5 時から出勤までの間、昼休み、就寝前、歯磨き等の隙間時間を利用して勉強していました。

職場では、資格取得者も多く、勉強に理解があり、勉強方法のアドバイスや業務の調整、職場内での OJT など非常に協力していただきました。

4 試験当日の心構え、留意点

学科試験は新規問題が多く出題され難易度が高く感じますが、自分が難しく感じる問題は周りも同じだと思い、焦らずにわかる範囲を確実に回答することが大事です。

また、製図試験では、課題文を素直に読み取り、問題に寄り添うことが重要となります。

基本的には建築士に必要な素養を問う問題のため、私の場合、自分が一級建築士だったらどう解くかと思いながら試験を受けました。

5 県職員採用試験受験者へのアドバイス

福島県では、業務を通じて様々な人や建物と関わる機会があり、民間とはまた違う視点で建築に携わることができます。

また、入庁後も資格取得などスキルアップがしやすい職場環境となっていますので、興味のある方は是非採用試験を受験してみてください。